

平成30年度  
修了生による教育評価報告書

令和元年10月  
香川大学大学院地域マネジメント研究科

## 目次

総括	3
第1章 修了生による大学院教育評価アンケート調査の概要	
1. 調査の目的	5
2. 調査実施期間	5
3. 調査対象	5
4. 調査の内容	5
5. 集計方法	5
第2章 調査結果について	
1. 回答者の属性	6
2. 分析	
1. 在学当時の状況について	
(1) 在学中の出席状況について (問1)	8
(2) 在学中勉強時間 (問2)	8
(3) 仕事で役立ったと思う科目 (問3)	9
(4) 仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目 (問4)	10
(5) 土曜日の開講について (問5)	11
(6) プロジェクト研究について (問6)	11
(7) 社会人組織、社会人組織以外からの支援について (問7,8)	12
(8) 学部学生の就職について (問9)	13
(9) 自習室、教室の環境について (問10,11)	13
2. 修了後の効果について	
(1) 大学院教育で身についた能力と現在の仕事に必要な能力 (問12)	14
(2) 学んだことに満足しているかについて (問13)	18
(3) 愛着について (問14)	18
3. 現在の状況について	
(1) 自己研修について (問16)	19
(2) 地域活動について (問17)	20
(3) 研究科開催の講演会・シンポジウムなどについて (問18,19)	21
(4) 後期 (10月) 入学の必要性について (問20)	22
3. 自由記述のデータ	
(1) プロジェクト研究について (問6)	23
(2) カリキュラム等について (問15)	23
(3) 改善点、要望など (V)	23

## 総 括

- 平成 30 年度修了生 31 人中 28 人 (90.3%) から回答があった。
- 平成 30 年度修了の 14 期生の属性の特徴は以下の通りである。
  - ・ 30 歳代の年齢層が比較的多い。
  - ・ 自宅・勤務地は高松市が 4 割前後で最も多く、香川県全体ではいずれも 71.4%である。
  - ・ 就業状況は入学時で正規雇用が 77.8%、修了時では同 85.2%である。
  - ・ 職種は入学時・修了時のいずれにおいても公務員 (国・地方自治体) が 16.7%と最も多い。それに次ぐ形で、保健・衛生・医療関係と情報・通信関係が 12.5%、建設と金融関係が 8.3%となっている。
  - ・ 役職については、入学時・修了時のいずれにおいても、主任が 14.3%と最も多く、次いで代表取締役が 10.7%となっている。
- 在学中の出席状況は、すべての授業に出席した場合を 100%として平均 87.3%である。前回アンケート調査(平成 29 年度修了生対象)では 86.7%であった。
- 週当たりの勉強時間は、13.9 時間である。前回アンケート調査では、11.5 時間であり、約 2.4 時間増加した。
- 仕事で役立ったと思う科目は、「アカウンティング」と回答した人が最も多い (回答者に対して 25%の割合)。仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目は、「地域マネジメント論」と回答した人が多い (回答者に対して 21.4%)。
- 土曜日の開講は、必要 (57.1%)、ある程度必要 (35.7%) で合計 92.8%となり、土曜日開講の必要性は高い傾向にある。前回アンケート調査(平成 29 年度修了生対象)では、必要 (72.0%)、ある程度必要 (24.0%) で合計 96.0%であった。
- プロジェクト研究については、「満足している」(28.6%)、「ある程度満足している」(50.0%) で合計が 78.6%となっている。前回アンケート調査(平成 29 年度修了生対象)では、「満足している」(58.3%)、「ある程度満足している」(33.3%) で合計が 91.6%であった。
- 社会人組織 (所属組織) からの支援を受けた人は 44.0%、社会人組織以外 (奨学金など) からの支援を受けた人は 28.0%と、あまり多くない。
- 学部からの進学生の就職についての対応の満足度は「満足している」(42.9%)、「ある程度満足している」(42.9%) で、85.7%が肯定的な回答をしている。
- 環境 (教室、自習室) については、教室は「満足している」(29.6%)、「ある程度満足してい

る」(51.9%)で合計81.5%が肯定的に回答している。

自習室は「満足している」(55.6%)、「ある程度満足している」(11.1%)で合計66.7%が肯定的に回答している。

前回アンケート調査(平成29年度修了生対象)における肯定的回答の割合は、教室で96.0%、自習室で92.0%であったことを踏まえると、教室・自習室環境の改善を検討する必要がある。

- 大学院教育で身についた能力の上位5つは、「現状を分析し目的や課題を明らかにする力」「物事に進んで取り組む力」「幅広い知識や教養」「論理的に考え、物事を進める力」「目標を設定し、確実に行動する力」である。
- 研究科で学んだことについての満足度については、「満足している」(63.0%)、「ある程度満足している」(33.3%)を合わせて96.3%が肯定的に回答している。  
前回アンケート調査(平成29年度修了生対象)では、「満足している」(60.0%)、「ある程度満足している」(40.0%)と合計100.0%が肯定的に回答しており、引き続き高い水準を維持している。
- 研究科に愛着があるかどうかは、「非常にある」(33.0%)、「ある程度ある」(66.7%)で肯定的な回答が100%であった。前回アンケート調査(平成29年度修了生対象)でも、100%であった。
- 講演会、シンポジウム等への修了後の参加意向を示す割合は81.5%であり、開催形式として「一般公開」がよいとする意見が92.6%を占めている。
- 後期入学の必要性についての回答は、「どちらともいえない」が63.0%と半数以上に上り、肯定的回答(「非常に必要」0.0%、「ある程度必要」11.1%)の割合11.1%は否定的回答(「全く必要ない」11.1%、「あまり必要でない」14.8%)の割合25.9%の半数を下回る結果となっている。

## 第1章 修了生による大学院教育評価アンケート調査の概要

### 1. 調査の目的

この度、本研究科の平成30年度修了生を対象に大学教育評価に関するアンケート調査を実施し、その調査結果を「修了生による大学院教育評価報告書」に取りまとめた。

この調査の目的は、本研究科の提供する専門職大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本研究科に対する要望等を把握することを目的として実施することである。

### 2. 調査実施期間

平成31年3月24日（日）修了式後

### 3. 調査対象

#### （1）調査対象と調査方法

調査対象は、平成30年度地域マネジメント研究科の修了生全員である。修了式、学位授与式の終了後、修了生にアンケートに記入してもらい、その場で回収した。

#### （2）回収数及び回収率

アンケート調査の回収数は、平成30年度修了生31人中28人から回答があった

### 4. 調査の内容

アンケート調査の質問項目は、Ⅰ. 在学当時の状況について、Ⅱ. 在学当時の支援関係について、Ⅲ. 修了後の効果について、Ⅳ. 現在の状況について、Ⅴ. 香川大学、本研究科へのご要望、Ⅵ. あなた自身について、の6項目についてである。

### 5. 集計方法

集計方法は、質問ごとに単純集計を行い、合計数とその割合（小数点第1位未満を四捨五入）を％で表示した。なお、回答にあたって、未記入（無回答）と答えたものは、集計数に含めないこととした。そのため、質問ごとに集計総数が異なっている。

## 第2章 調査結果について

### 1. 回答者の属性

問 21～問 28 は、回答者（修了生）の入学時の年齢、住所所在地及び勤務地、就業状況、職種等を問うたものである。集計結果については、前述したとおり無回答を除いているため、集計総数が問ごとに異なっているのをご注意願いたい。

#### (1) 入学時の年齢（問 21）

入学時の年齢については25件の回答があり、30歳代(44.0%)が最も高く、以下、20代(24.0%)、40代(20.0%)、50代(12.0%)と続いている（図1を参照）。

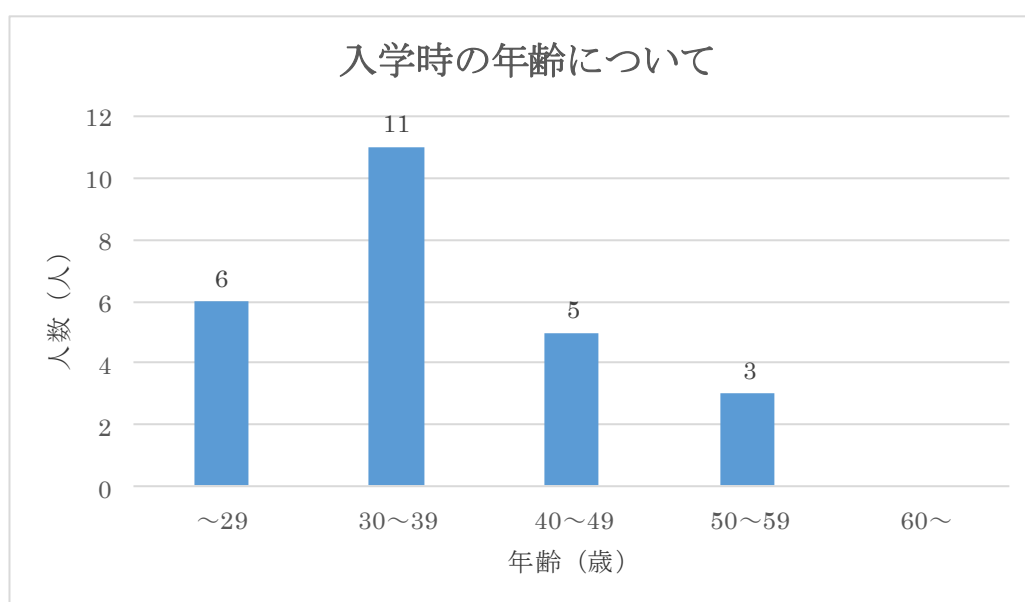


図1 入学時の年齢

#### (2) 入学時の自宅所在地及び勤務地（問 22）

研究科入学時における自宅所在地は28件の回答があり、高松市35.7%（10人）で、高松市以外の香川県35.7%（10人）、県外は愛媛県松山市、西条市、高知県高知市、岡山県岡山市、鳥取県で25.0%（7人）である。

勤務地は28件の回答があり、高松市42.9%（12人）、高松市以外の香川県勤務地は28.6%（8人）となっている。

#### (3) 入学時の就業状況、職種、役職について（問 23, 24, 25）

問 23 は本研究科の修了生が入学時に正規雇用で働いているか、非正規雇用で働いているかを問うたものである。27件の回答があり、正規雇用が77.8%（21人）、非正規雇用が14.8%（4人）、働いていないは7.4%（2人）である。

入学時の職種は24件の回答があり、公務員（国・地方自治体）が16.7%（4人）が一番多く、保健・衛生・医療関係が12.5%（3人）、建設、情報・通信関係、金融関係、サービス関係が各8.3%（2人）、機械関係、食品、化学関係、販売が各4.2%（1人）、その他が20.8%（5人）となっている（図2を参照）。

入学時の役職は28件の回答があり、主任14.3%（4人）、代表取締役10.7%（3人）、アルバイト

ト、係長、担当が各 7.1% (2 人)、スタッフ、チームリーダー、業務責任者、主査、主事、統括部長、副代表、副調査役、理事が各 3.6% (1 人) となっている。

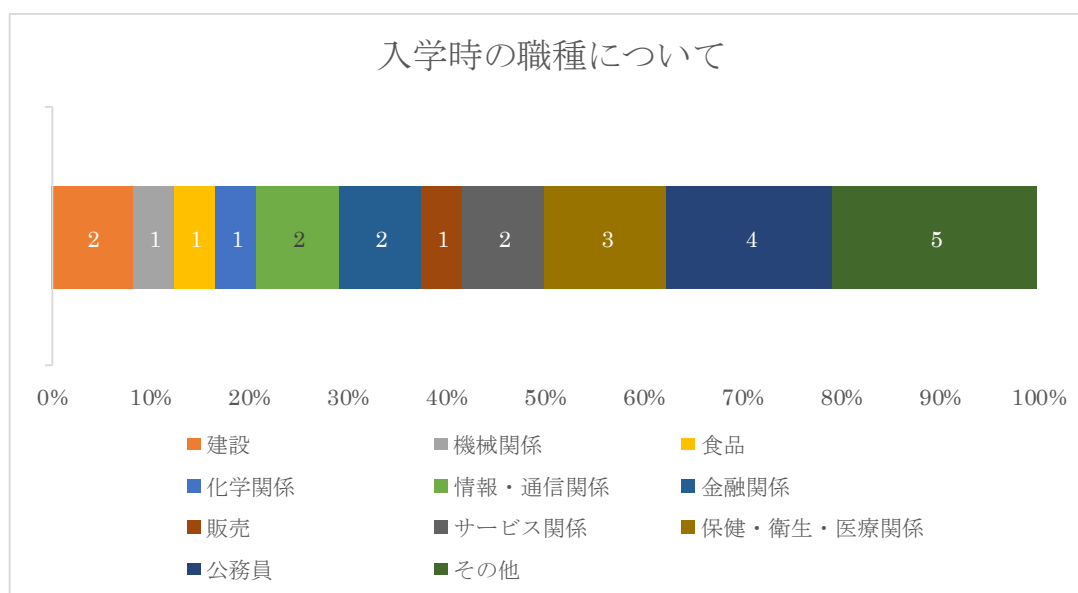


図 2. 入学時の職種について

(4) 現在の就業状況、職種について (問 26, 27, 28)

問 26 は本研究科の修了生が現在、正規雇用で働いているか、非正規雇用で働いているかを問うたものである。27 件の回答があり、正規雇用が 85.2% (23 人)、非正規雇用が 3.7% (1 人) である。

現在の職種は 24 件の回答があり、公務員(国・地方自治体)が 16.7% (4 人) で最も多く、続いて、情報・通信関係、保健・衛生・医療関係が各 12.5% (3 人)、建設、金融関係が各 8.3% (2 人)、機械関係、食品、化学関係、サービス関係が各 4.2% (1 人)、その他 25.0%(6 人)となっている(図 3 を参照)。

現在の役職は 28 件の回答があり、主任 14.3% (4 人) が一番多かった。代表取締役 10.7% (3 人)、主査 7.1% (2 人)、スタッフ、チームリーダー、課長代理、業務責任者、係長、主事、取締役、統括部長、副代表、副調査役、理事が各 3.6% (1 人)、その他 25.0% (7 人) となっている。

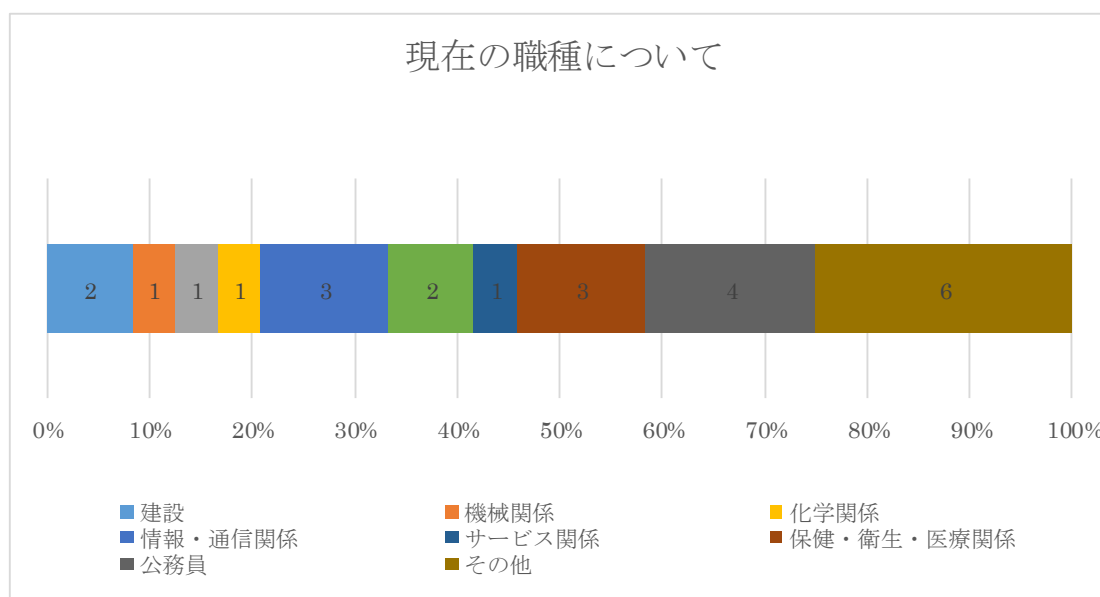


図 3. 現在の職種について

## 2. 分析

### 1. 在学当時の状況について

#### (1) 在学中の出席状況について（問 1）

在学中にどれだけ出席できたかを見てみる。全ての授業に出席した場合を 100%とし回答してもらったところ、平均が 87.3%となった（図 4 を参照）。

前回アンケート調査(平成 29 年度修了生対象)では、86.7%であった。

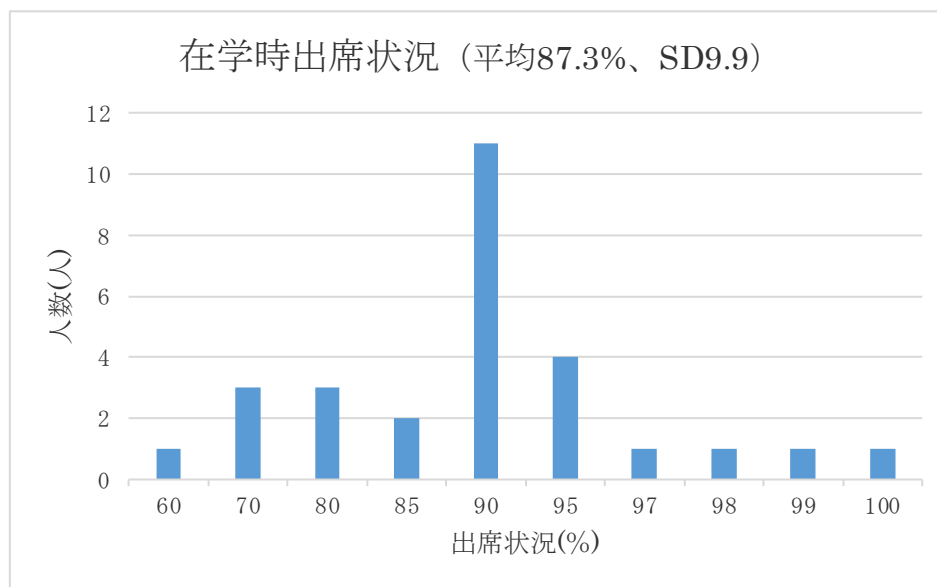


図 4. 在学中出席状況

#### (2) 在学中勉強時間（問 2）

在学中に週に勉強時間をどの程度、またどのように確保したのかを見てみると、平均 13.9 時間となる（図 5 を参照）。

前回アンケート調査(平成 29 年度修了生対象)では 11.5 時間であった。

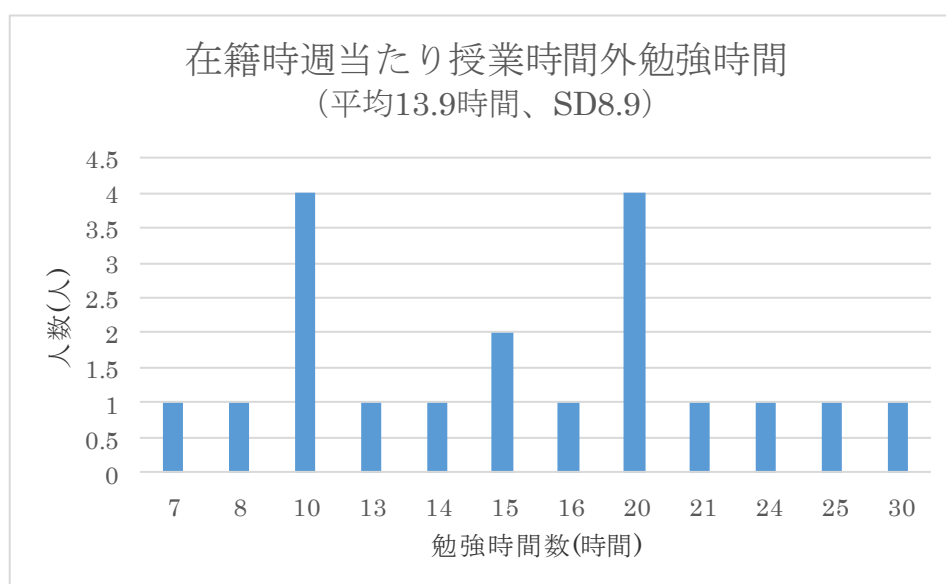


図 5. 在学中勉強時間



授業時間以外の勉強時間をどのように確保しましたか（問2 記述）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の調整とスケジュール管理の徹底</li> <li>・家族の協力と理解</li> <li>・空いている時間をフル活用した</li> <li>・土、日に集中的に。</li> <li>・仕事の合間</li> <li>・授業後・週末または午前中5時くらいから</li> <li>・本を読む</li> <li>・とにかく勉強するようにしました</li> <li>・睡眠時間を減らした</li> <li>・家族が寝てから</li> <li>・電車の中で</li> <li>・仕事の休みの日（土、日）</li> <li>・仕事の合間、夕食後へ</li> <li>・仕事以外の時間</li> <li>・週末</li> <li>・仕事が終わったあとのPV時間</li> <li>・授業後、自習室等・終業後の自習室及び土日での学習</li> <li>・終業後、休日に自習室を利用した</li> <li>・寝る時間を少なくしました</li> <li>・週末と就業後・早朝または昼間、作業時間を取り、仕事でも考えてました。</li> </ul>

(3) 仕事で役立ったと思う科目（問3）

仕事に役立ったと思う科目を見ると以下のようなになる（28件の回答）。回答者には最大3つの科目を挙げてもらい、表には回答数及び回答者数28人に対する同回答数の割合を示している。

表1. 仕事の上で役立ったと思う科目

アカウンティング	7	25.0%	ビジネス・アカウンティング	1	3.6%
マネジメント・アカウンティング	5	17.9%	リスクマネジメント	1	3.6%
経営管理論	5	17.9%	マネジメント戦略	1	3.6%
統計分析	5	17.9%	意思決定分析	1	3.6%
組織行動論	5	17.9%	四国経済（公共）	1	3.6%
マーケティング戦略	4	14.3%	四国経済（地域政策）	1	3.6%
事業構想論	4	14.3%	四国経済事情	1	3.6%
プロジェクト演習・研究	3	10.7%	組織マネジメント	1	3.6%
マーケティング	3	10.7%	地域マネジメント論	1	3.6%
マーケティング・リサーチ	3	10.7%	社会起業家論	1	3.6%
人的資源管理論	3	10.7%	自治体財政政策	1	3.6%
地域公共政策	2	7.1%	クリエイティブ	1	3.6%
国際経営	2	7.1%	ファイナンス・マネジメント	1	3.6%
イノベーション・マネジメント	2	7.1%			

(4) 仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目（問4）

仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目を見ると以下のようなになる（28件の回答）。回答者には最大3つの科目を挙げてもらい、表には回答数及び回答者数28人に対する同回答数の割合を示している。

表2. 仕事とは関係なく役立ったと思う科目

地域マネジメント論	6	21.4%	ゲーム理論	1	3.6%
四国経済事情	5	17.9%	ファイナンス・マネジメント	1	3.6%
定性的研究方法論	5	17.9%	マーケティング	1	3.6%
統計分析	5	17.9%	マーケティング・マネジメント	1	3.6%
マーケティング戦略	4	14.3%	マーケティング・リサーチ	1	3.6%
イノベーション・マネジメント	3	10.7%	意思決定分析	1	3.6%
社会起業家論	3	10.7%	観光創造	1	3.6%
アカウンティング	2	7.1%	数学セミナー	1	3.6%
経営管理論	2	7.1%	組織行動論	1	3.6%
経済分析	2	7.1%	地域開発と資本市場の役割	1	3.6%
国際経営	2	7.1%	地域公共政策	1	3.6%
人的資源管理論	2	7.1%	費用便益分析	1	3.6%
クリエイティビティと地域活性化	1	3.6%			

(5) 土曜日の開講について（問 5）

社会人学生が多いこともあり、現在は土曜日も開講しているが、それについての回答（28 件）が以下ようになる（図 6 を参照）。「必要」（57.1%）「ある程度必要」（35.7%）合計 92.8%となった。

前回アンケート調査（平成 29 年度修了生対象）では、「必要」（72.0%）「ある程度必要」（24.0%）合計 96.0%であった。

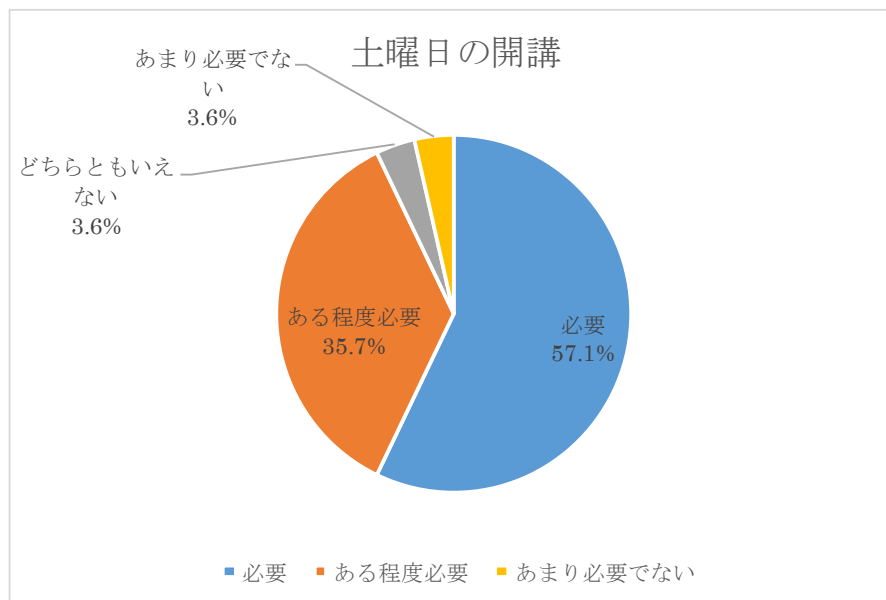


図 6. 土曜日の開講について

(6) プロジェクト研究について（問 6）

本研究科のカリキュラムの集大成となるプロジェクト研究について見てみると（28 件の回答）、「満足している」（28.6%）、「ある程度満足している」（50.0%）で合計 78.6%となった（図 7 を参照）。

前回アンケート調査（平成 29 年度修了生対象）では、「満足している」（58.3%）および「ある程度満足している」（33.3%）で合計 91.6%であった。

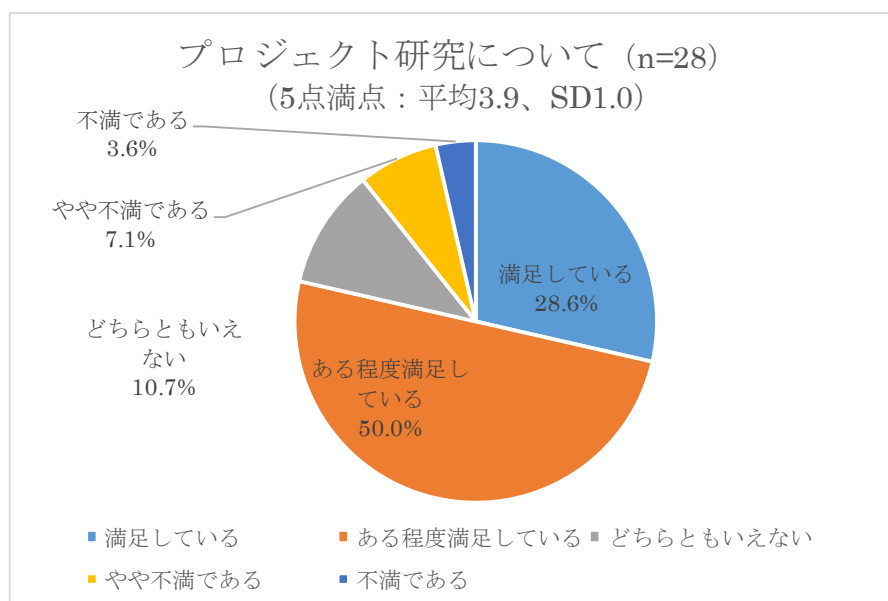


図 7. プロジェクト研究について

(7) 社会人組織、社会人組織以外からの支援について（問7,8）

社会人学生に、社会人組織（所属組織）からの支援ならびに社会人組織以外（奨学金など）からの支援について見てみると、以下のような状況である（図8を参照）。

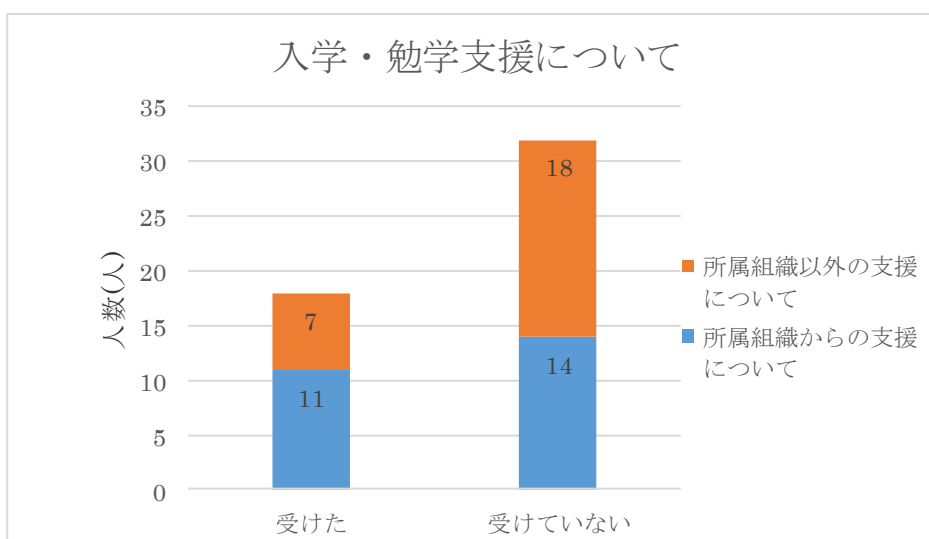


図8. 入学・勉学支援について

具体的な内容

所属組織からの支援内容（問7記述）
<ul style="list-style-type: none"><li>・業務の調整、学業の優先</li><li>・出張数の減</li><li>・学費</li><li>・学費の補助</li><li>・勤務の調整</li><li>・学費・入学金の補助</li><li>・時間的</li><li>・費用面、企業情報の提供</li><li>・学費の支援</li></ul>

所属組織以外からの支援内容（問8記述）
<ul style="list-style-type: none"><li>・授業料等</li><li>・専門実践</li><li>・教育訓練給付金</li><li>・訓練給付金</li><li>・後継者育成支援</li><li>・学費</li></ul>

(8) 学部学生の就職について (問 9)

学部からの進学生に、就職についての対応についての満足度を見てみることにする (図 9 を参照)。7 件の回答があり、「満足している」(42.9%)、「ある程度満足している」(42.9%) で合計 85.7%が肯定的に回答している。

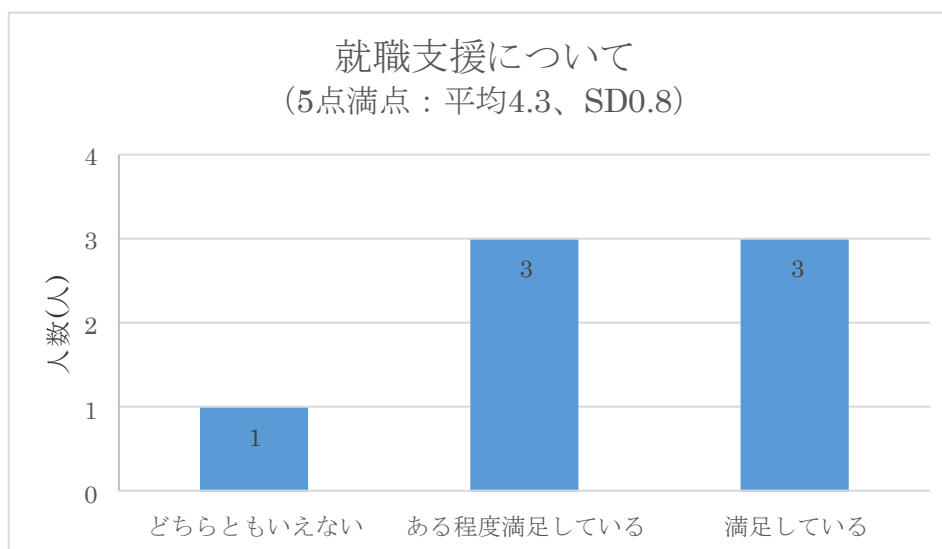


図 9. 就職支援について

(9) 自習室、教室の環境について (問 10,11)

自習室と教室の環境についての満足度を見てみることにすると、自習室については 27 件の回答があり、「満足している」(55.6%)、「ある程度満足している」(11.1%) で合計 66.7%が肯定的に回答している。教室については 27 件の回答があり、「満足している」(29.6%)、「ある程度満足している」(51.9%) で合計 81.5%が肯定的に回答している (図 10 を参照)。

前回アンケート調査(平成 29 年度修了生対象)では、自習室は 92.0%、教室は 96.0%が肯定的に回答していることを踏まえると、自習室及び教室の利用環境の改善について検討する必要性を示している。

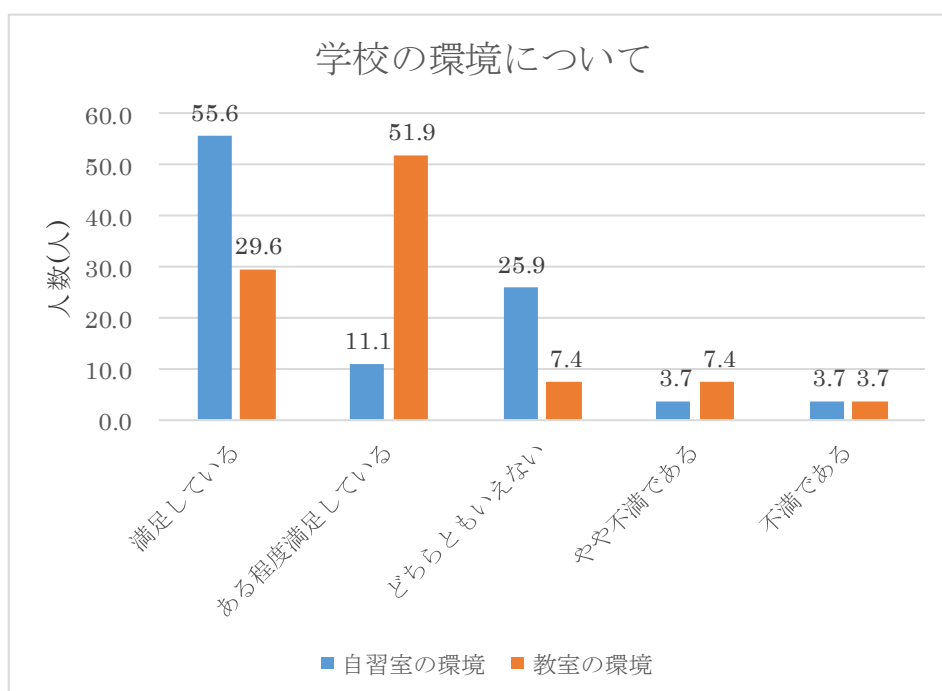


図 10. 学校の環境について

## 2. 修了後の効果について

### (1) 大学院教育で身についた能力と現在の仕事に必要な能力（問 12）

ここでは、19の能力について、大学院教育でどの程度身についたか、また現在の仕事でどの程度必要とされているかを、それぞれ「身についた」「ある程度身についた」「どちらともいえない」「あまり身につけていない」「身につけていない」、「必要」「ある程度必要」「どちらともいえない」「あまり必要ない」「必要ない」の5段階で回答してもらった。

なお、大学院教育の項目の「身についた」から「身につけていない」までを、「5、4、3、2、1」の5段階に（図 11-1 を参照）、現在の仕事の項目の「必要」から「必要ない」までを、「5、4、3、2、1」の5段階で表示した（図 11-2 を参照）。

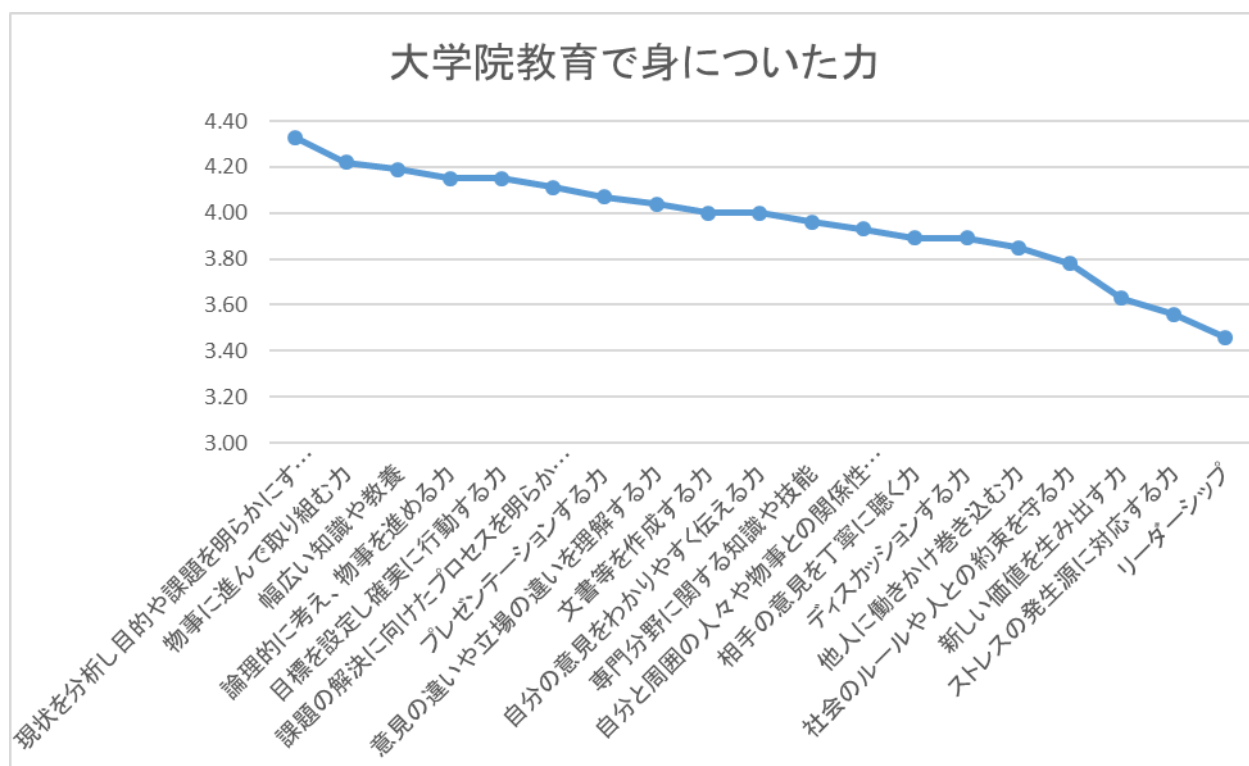


図 11-1. 大学院教育で身についた能力

表 3 大学院教育で身に付いた能力（平均点順）

		平均値	標準偏差
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4.33	0.48
①	物事に進んで取り組む力	4.22	0.70
⑬	幅広い知識や教養	4.19	0.68
⑮	論理的に考え、物事を進める力	4.15	0.66
③	目標を設定し確実に行動する力	4.15	0.72
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4.11	0.51
⑱	プレゼンテーションする力	4.07	0.78
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	4.04	0.71
⑯	文書等を作成する力	4.00	0.73
⑦	自分の意見をわかりやすく伝える力	4.00	0.78
⑭	専門分野に関する知識や技能	3.96	0.71

⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	3.93	0.73
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	3.89	0.80
⑰	ディスカッションする力	3.89	0.89
②	他人に働きかけ巻き込む力	3.85	0.82
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	3.78	0.93
⑥	新しい価値を生み出す力	3.63	0.88
⑫	ストレスの発生源に対応する力	3.56	0.97
⑱	リーダーシップ	3.46	0.99

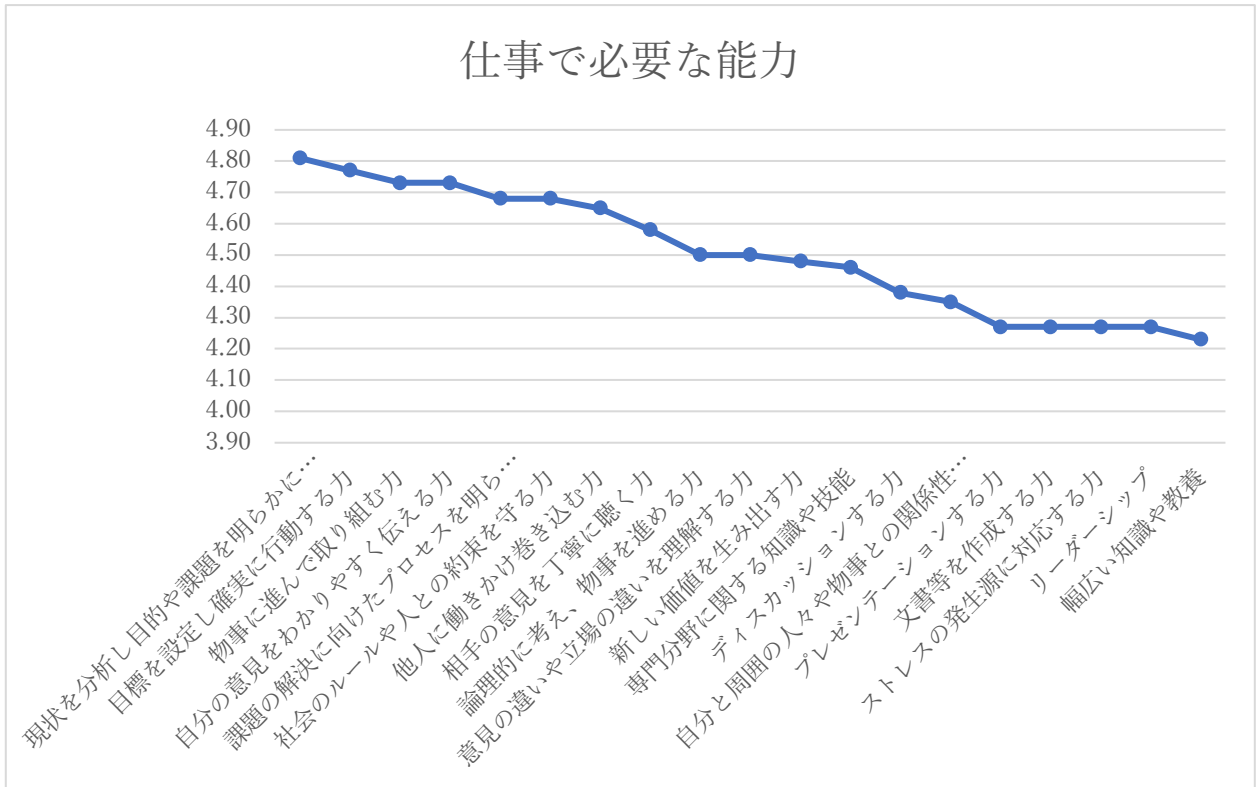


図 11-2. 現在の仕事に必要な能力

表 4 現在の仕事に必要な能力（平均点順）

		平均値	標準偏差
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4.81	0.40
③	目標を設定し確実に行動する力	4.77	0.51
①	物事に進んで取り組む力	4.73	0.53
⑦	自分の意見をわかりやすく伝える力	4.73	0.60
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4.68	0.56
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	4.68	0.63
②	他人に働きかけ巻き込む力	4.65	0.56
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	4.58	0.70
⑮	論理的に考え、物事を進める力	4.50	0.71
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	4.50	0.65
⑥	新しい価値を生み出す力	4.48	0.77
⑭	専門分野に関する知識や技能	4.46	0.76

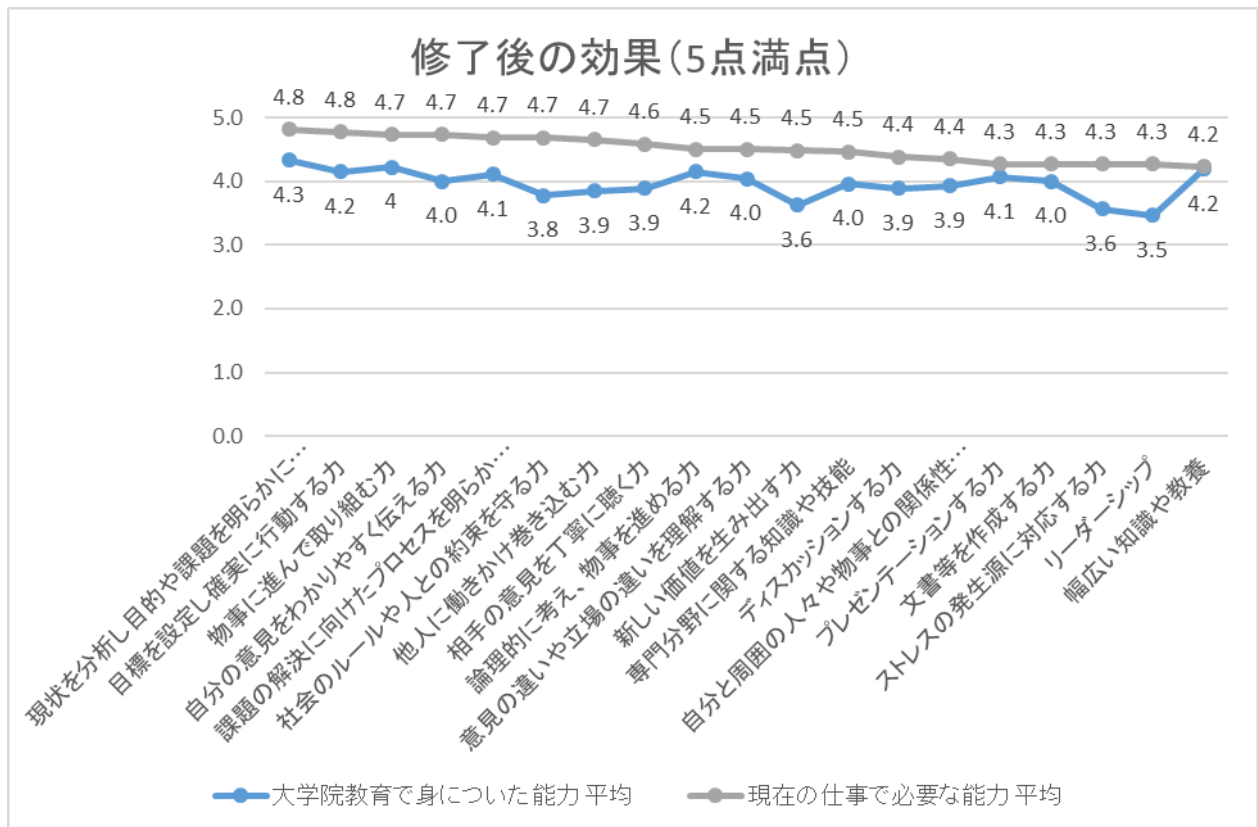
⑰	ディスカッションする力	4.38	0.80
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	4.35	0.75
⑱	プレゼンテーションする力	4.27	0.92
⑯	文書等を作成する力	4.27	0.72
⑫	ストレスの発生源に対応する力	4.27	0.92
⑲	リーダーシップ	4.27	0.96
⑬	幅広い知識や教養	4.23	0.86



表5 「大学院教育で身についた能力」と「現在の仕事で必要な能力」の順位差

		身についた能力	仕事に必要な能力	順位差 ※
①	物事に進んで取り組む力	2	3	1
②	他人に働きかけ巻き込む力	15	7	-8
③	目標を設定し確実に行動する力	5	2	-3
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	1	1	0
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	6	5	-1
⑥	新しい価値を生み出す力	17	11	-6
⑦	自分の意見を分かりやすく伝える力	10	4	-6
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	13	8	-5
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	8	10	2
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	12	14	2
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	16	6	-10
⑫	ストレスの発生源に対応する力	18	17	-1
⑬	幅広い知識や教養	3	19	16
⑭	専門分野に関する知識や技能	11	12	1
⑮	論理的に考え、物事を進める力	4	9	5
⑯	文書等を作成する力	9	16	7
⑰	ディスカッションする力	14	13	-1
⑱	プレゼンテーションする力	7	15	8
⑲	リーダーシップ	19	18	-1

※順位差は、現在の仕事で必要な能力（順位）-大学院教育で身についた能力（順位）



(2) 学んだことに満足しているかについて (問 13)

ここでは、総合的にみて、研究科で学んだことについて満足しているかについて見てみると (27 件の回答)、「満足している」(63.0%)、「ある程度満足している」(33.3%)で、合計 96.3%が肯定的に回答している (図 12 を参照)。前回アンケート調査(平成 29 年度修了生対象)では、「満足している」(60.0%)「ある程度満足している」(40.0%)で合計が 100.0%であった。

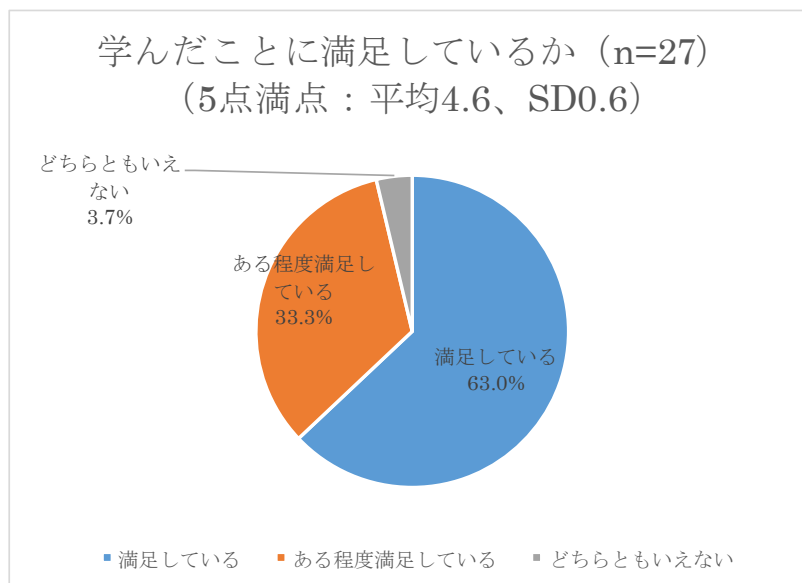


図 12. 学んだことに満足しているか

(3) 愛着について (問 14)

研究科に愛着があるかどうかを見てみると (27 件の回答)、「非常にある」(33.3%)、「ある程度ある」(66.7%)で合計 100%となり、すべての回答者が肯定的に回答している (図 13 を参照)。前回アンケート調査(平成 29 年度修了生対象)では、合計が 100.0%であった。

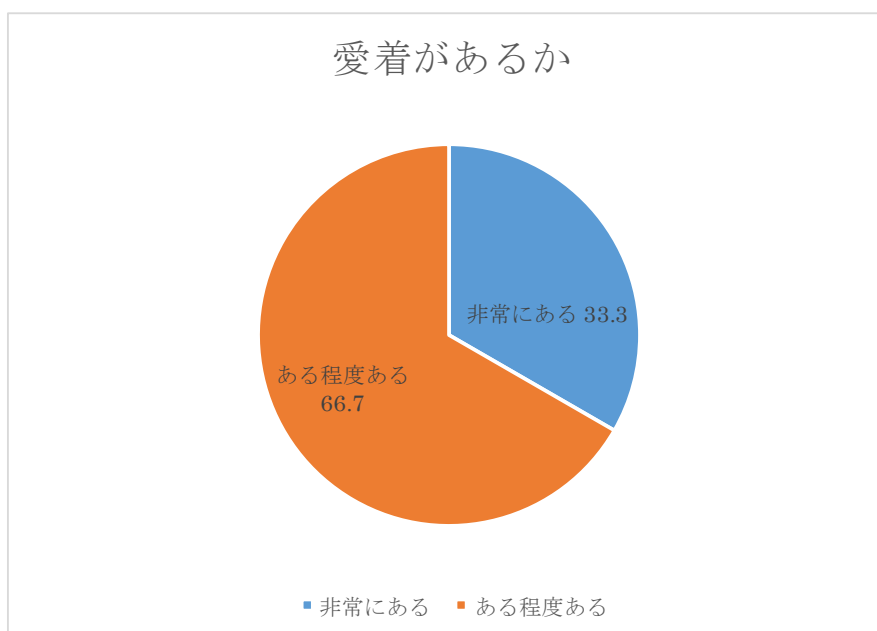


図 13. 愛着があるか

### 3. 現在の状況について

#### (1) 自己研修について (問 16)

能力向上のため、何か自己研修を行っているかを見てみると (25 件の回答)、行っている人・予定している人 (52.0%) と行っていない人 (48.0%) となった (図 14 を参照)。

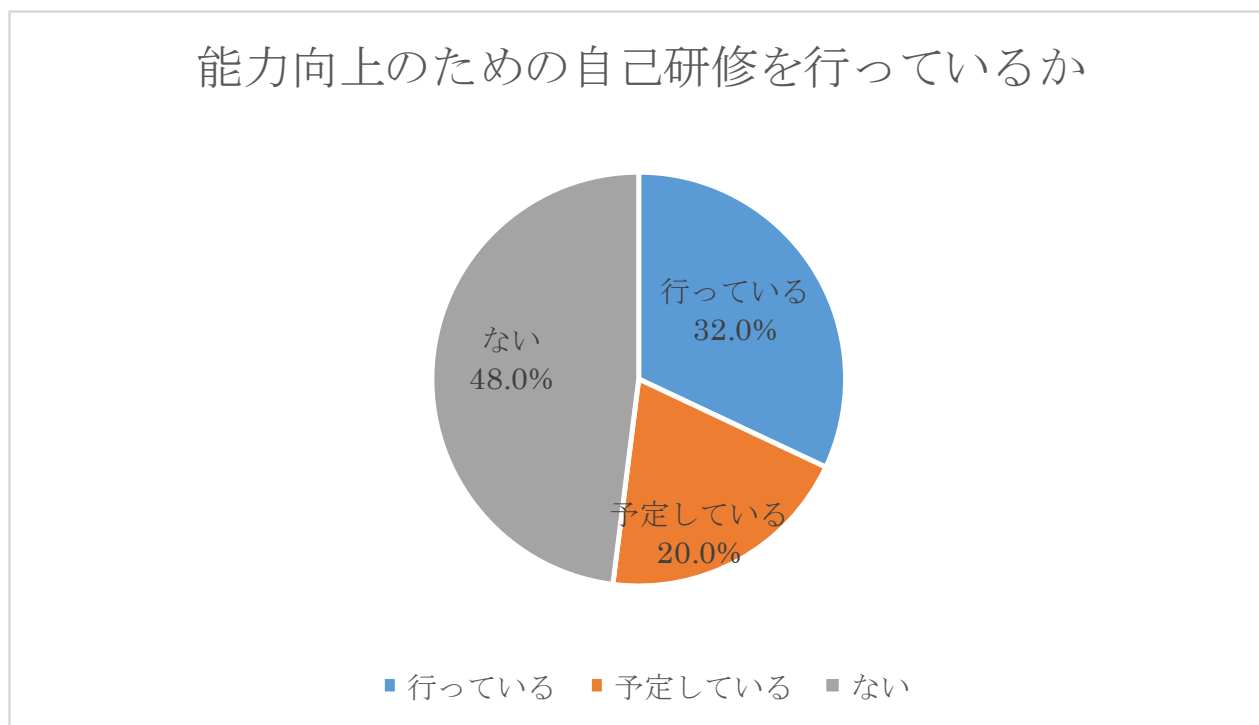


図 14. 能力向上のための自己研修を行っているか

#### 具体的内容 (問 16 記述)

行なっていると回答した人
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 社内制度 (通信教育) にて英語と統計学</li><li>・ 様々なセミナーへの積極的な受講</li><li>・ 英会話</li><li>・ 倫理法人会、資格取得、IT コーディネータ研修</li><li>・ 研究</li><li>・ 通信教育による資格取得</li></ul>
予定していると回答した人
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 論文の公表</li><li>・ 研究を続けたいと考えています</li><li>・ 英会話</li></ul>

(2) 地域活動について (問 17)

個人あるいはグループで地域のための活動を行っているかを見ても (26 件の回答)、行っている人 (30.8%)、予定している人 (7.7%)、行っていない人 (61.5%) となった (図 15 を参照)。

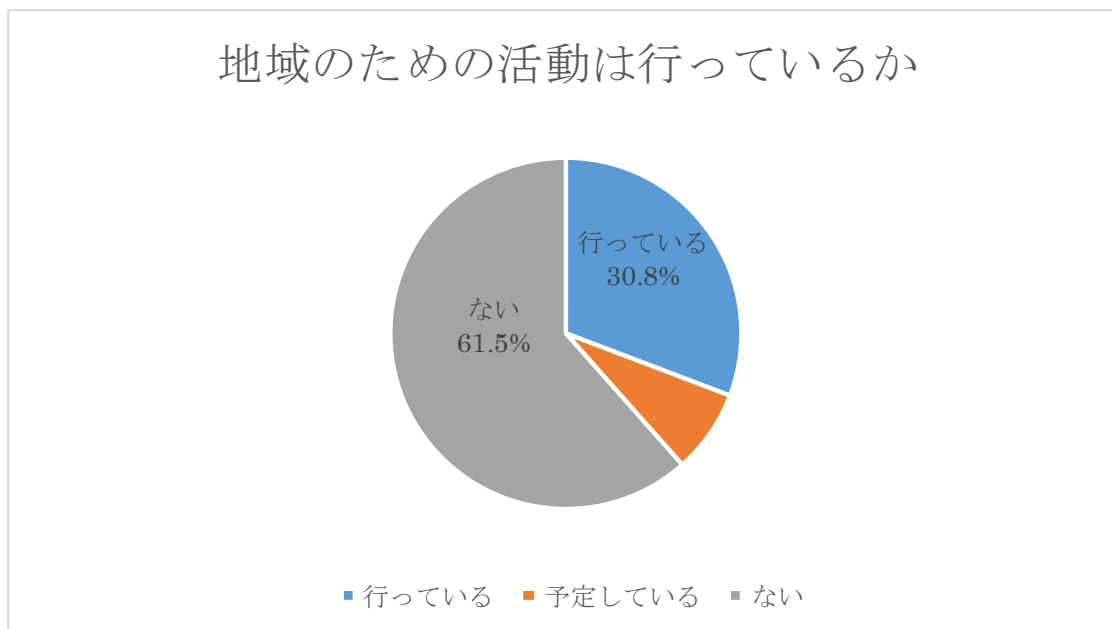


図 15. 地域の為の活動を行っているか

問 地域のための活動内容

地域貢献

県産品支援

仕事そのものが地域に関わることです

NPO まちづくり推進隊、ハッカソン (総務省主催) 等、学校や高専・企業への IT セミナー、ハッカソン、ハンズオン等

動物問題の啓蒙啓発

問 地域のための活動予定内容

丸亀キッズ MBA

(3) 研究科開催の講演会・シンポジウムなどについて (問 18, 19)

研究科で開催した講演会・シンポジウムなどに参加しようと思うかについて見てみると (27 件の回答)、81.5%参加を希望している (図 16 を参照)。

さらに、研究科で開催する講演会・シンポジウムはどのような形がよいと思うかについて見てみると (27 件の回答)、対象を限定しない「一般公開」が 92.6%、「在学生・修了生のみ対象」が 3.7%となった (図 17 を参照)。

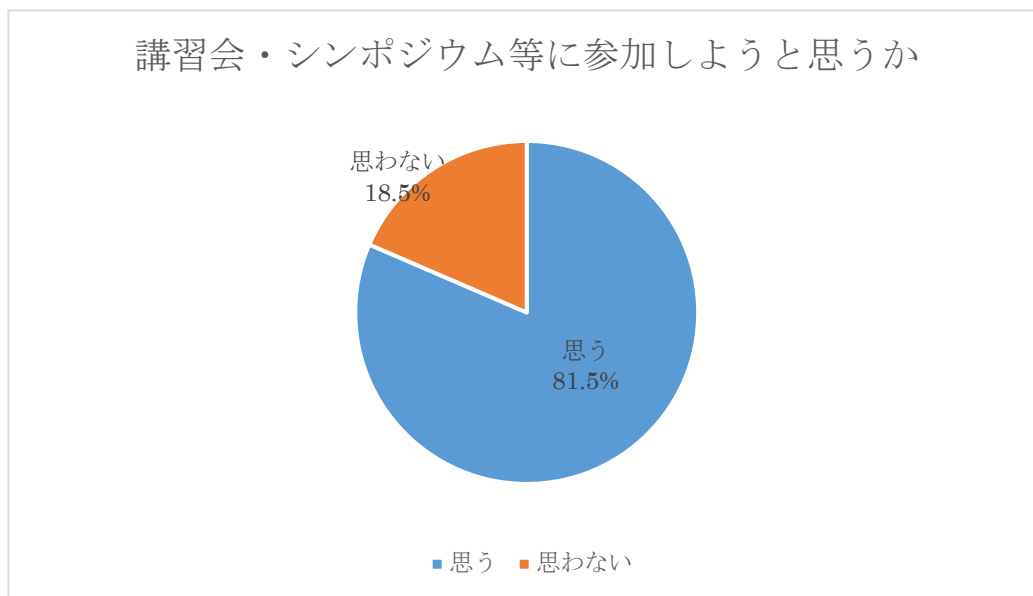


図 16. 講演会・シンポジウムに参加したいか

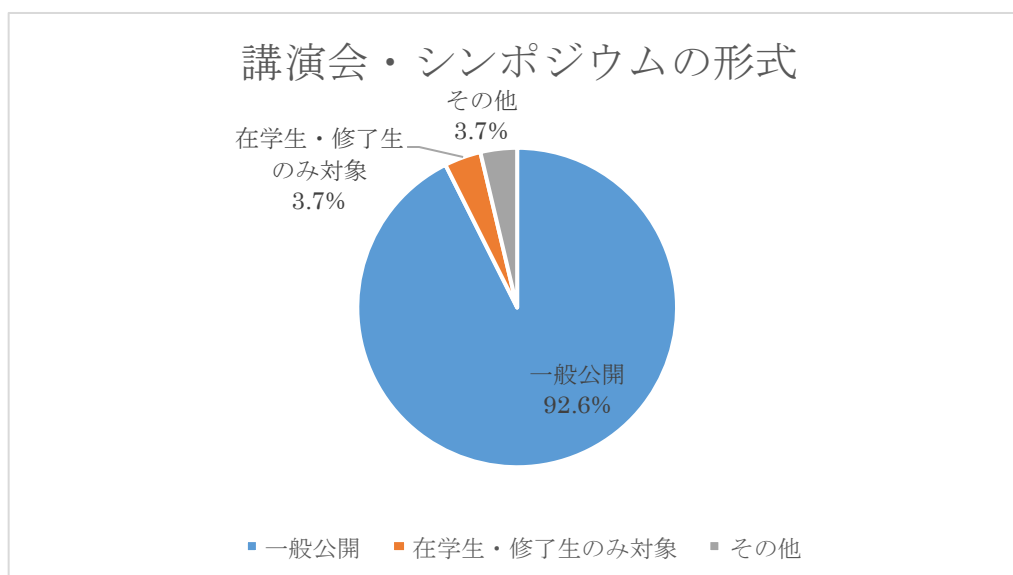


図 17. 講演会・シンポジウムの形式について

問 地域マネジメント研究科で開催する講演会・シンポジウムはどのような形がよいと思いますか。

・内容によって。

(4) 後期（10月）入学の必要性について（問20）

研究科に、後期（10月）入学が必要かどうかについて見てみると（27件の回答）、「非常に必要」（0.0%）、「ある程度必要」（11.1%）、「どちらともいえない」（63.0%）、「あまり必要でない」（14.8%）、「全く必要でない」（11.1%）となった。（図18を参照）。

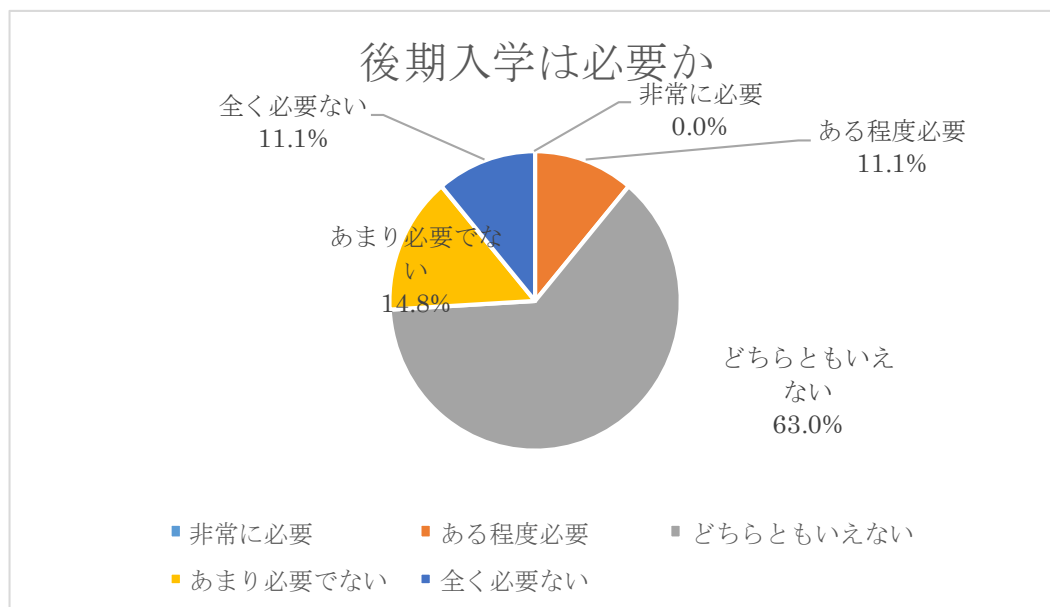


図18. 後期入学の必要性について

後期（10月）入学について（問20 記述）

- ・ 後期入学を実施するメリットがわからない
- ・ シンポジウムや合宿などに参加できないから
- ・ 社会人であれば年次毎調整できると思う為。

### 3. 自由記述のデータ

#### (1) プロジェクト研究について (問 6)

問 6 プロジェクト研究についてどう思いますか。またその理由はなんですか。

- ・自分の業務に関わる知見を学術的に整理できた
- ・手厚く支援をしていただいたから
- ・時間があればもっと詳しく調査することができた
- ・今後に活かすことができる
- ・ゼミによって指導にバラつきがあるように感じられた。
- ・年間を通じた研究の時間配分が少しうまくいかなかった
- ・途中で終わってしまったため、続きをやりたいと考えています。
- ・自分の目的通り進められた為。
- ・目的をある程度達成でき、仕事面でも活かせると思うため。
- ・業務関係で不完全燃焼な研究となってしまった。
- ・指導に熱意を感じなかった。事前に提出した論文を読まずに指導して下さった時があり、それがすごく印象に残っています。論文を書く必要がないのかなと思いました。
- ・必要性を感じない。ビジネススクールなので。
- ・広い視野で考える力が身についた。とことんまでやる気力も。
- ・仕事に役立つ内容で、しっかりと調査し、発表できたので。

#### (2) カリキュラム等について (問 15)

問 15. 地域マネジメント研究科のカリキュラム等について自由に意見を記入してください。

- ・プロジェクト研究に割く時間を少なくして、その分専門的な勉強をしたかった
- ・センシティブな内容も多いため、情報セキュリティをしっかりと行う
- ・できればプロ研などの必要な講義は土曜日にしておいていただけるといいと思います。全ての人が地場産業で働いていると言う事はないと思います。そうすると入学しやすくなると思います。
- ・集中講義にも取り消し期間を設けた方が良くと思う。カリキュラム (シラバス) と内容が違うのでやめたかったが、取り消しできず放棄になった。2年次授業を取る余裕がないのが残念だった。
- ・土曜日の講義を増やしてほしい。夏/冬の短期集中は”毎日”であり、遠方からは受講が難しい。
- ・遠方地から来られる方も多いため、始業時間をもう少し後ろ倒しにするのも良いかと思います。
- ・2年次履修をあまりとれなかったのが残念です。
- ・医療経営についての科目があればよかった。
- ・ファイナンス系の科目を増やして欲しい

#### (3) 改善点、要望など (V)

V. 香川大学、あるいは地域マネジメント研究科がもっと重視したり改善したりした方が良くと思う教育内容や取り組み、要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

- ・トイレが掃除されていないことが多く (特別講義室横)、不潔だと思うことがよくあった。
- ・修了後の公聴の機会
- ・卒業後も授業を聴講できるようにしてほしい